

島一番の捕食者：イリオモテヤマネコ

西表島特有のイリオモテヤマネコは、ヤマネコの亜種で、海面が低い時代にユーラシア大陸を渡り、海面が高くなったとき島に孤立された。1965 年に正式に報告され、1967 年に新種として認定された。現在は 100 頭ほど生息しているとされ、絶滅寸前に瀕している。夜行性で、主に川岸のような湿った土地やマングローブ森林に生息している。

西表島は野生のネコ科が生息する世界でも最小クラスの島であり、餌となる小型哺乳類が限られているため、イリオモテヤマネコは進化することによって、トカゲ、ヘビ、カエル、昆虫、鳥、コウモリ、淡水エビなど 70 種以上の生物を食べられるようになった。主な脅威は交通事故、生態系の崩壊、野生のヤギのような外来生物や飼い猫などが持ち込む病気がある。保護活動の一部としては、速度制限を設けたり、動物が通れる地下道を道の下に設置するなど行われている。イリオモテヤマネコや島の自然のことをさらに知るためには西表野生生物保護センターが最適である。

写真キャプション：

イリオモテヤマネコは体調 50~60cm で、黒い斑点模様が体を覆いつくし、眼の回りには白い線があり、耳の後ろには白い斑点がある。